

◆市民活動ミュージアム 2015

室蘭市内で活動する市民グループが、様々な分野で多岐にわたり、研究成果を発表する場の「市民活動ミュージアム」。10月24日(土)、25日(日)の2日間、モルエ中島イベントスペースで開催されました。

室蘭から失われつつある自然を再生し、保存を目指しながら活動を続けている「ビオトープ・イタンキ」は、2008年10月～参加しており、今年が7回目です。

今回は、1人でも多くの市民に当法人の活動を知って、楽しんでもらいたい…ということで、現地の造成された池の中から魚を捕獲。また植樹したキハダの木に産卵したカラスアゲハの幼虫を採取して展示しました。

水槽の中では、トミヨ、エゾホトケドジョウ(絶滅危惧種)、マドジョウ、ニホンザリガニ(絶滅危惧種)が元気に泳ぎ回り、

虫かごの中ではカラスアゲハの幼虫がジーっと緑の葉っぱに潜んでいたり…。臨場感満点のコーナーはちびっ子達から注目の的でした。

2日目の25日は初雪が舞う寒い1日でしたが、日曜日とあって買い物客や親子連れの人達が大勢集まり、興味津々で大好評でした。中には苫小牧から来たという小学生が、展示中の生き物を熱心に観察。とびきり感動していたのが印象に残りました。

私たちの暮らしの環境も様々に変わり、自然が失われつつある昨今、周りの大人達も、スマホゲームに熱中する子ども達を積極的に外に連れ出して、自然に触れることができるビオトープ・イタンキでの自然体験をしてみたいはいかがでしょうか。

春、夏、秋、四季折々たっぷり楽しめますよ。

(田中道江)



◆エゾエンゴサクが開花

昨年6月に、里山づくりに取り組んでいる伊藤さんのご厚意でエゾエンゴサクの球根を分けていただき、ビオトープ・イタンキの林床に植えました。今年は春の訪れが早いようで、4月の初め頃かから咲き始め、中旬には満開となりました。ビオトープ・イタンキにも「青いじゅうたん」ができつつあります。

(磯田広史)

